

北アルプス地域自転車活用推進計画（案）に対する  
意見公募（パブリックコメント）の結果と対応について

1. 意見募集対象

北アルプス地域自転車活用推進計画（案）

2. 意見の募集期間

令和3年11月15日（月曜日）から令和3年12月14日（火曜日）まで

3. 意見の募集方法

持参、郵送、FAX、電子メール

4. 受付意見数

3名（17件）

5. 意見・提案と村の考え方

別紙のとおりご意見に対する村の考え方をお知らせいたします。

※意見・提案の内容は、意見提出者の住所、氏名及び個人を特定する事項などの個人情報等を除き、原則提出された意見の原文を掲載しています。

## 北アルプス地域自転車活用推進計画（案）に寄せられた意見

No	頂いた意見（提出された順）	頂いた意見に対する村の考え方	計画案の修正の有無
1	ポンプには二度お世話になった。ボトルへの給水を加えていただけるとありがたい。	サイクルステーションで提供可能な主なサービスとしては、工具貸出、空気入れ貸出、トイレ提供、休憩となっています。給水については特に明記していませんが、サイクルステーションによって対応可能な施設もあると思います。	無
2	サイクルトレインは魅力的。旅先を選ぶ理由の一つとなる。マイカー駐車～鉄道 or バスで移動～サイクリング～駐車場へ戻るといったことができるとう行動範囲が広がる。	P66 に記載したとおり、旅客輸送の安全性確保を前提としつつ、北アルプス圏域についても事業者へのご理解を求めながら、より魅力的なサイクルツーリズムの展開を目指して行きます。	無
3	姫川サイクリングロードを整備し、大出公園あるいは水神宮橋まで延長。交通量は少なく平坦で走りやすい。右岸、左岸、塩の道を組み合わせて周遊。	施設管理者に要望の旨を伝えていきます。	無
4	自転車通勤をしているが、冬期はもちろん、雨降り、荷物がある、早朝勤務など、自転車通勤しない理由はたくさんある。何が何でも自転車とはならず、やはり自動車は便利。	通勤の選択肢の1つとして自転車活用が図られるよう、普及・啓発に努めていきます。	無
5	7月に開催されたロゲイニングのイベントで、地図を片手、並走、飛び出しが見受けられた。一時停止で足を着けとまでは言わないが、マナーは守って欲しい。主催者からの注意も必要。	P70「ウ 安全にサイクリストのマナーアップに向けた意識啓発の推進」に記載したとおり、サイクリングを楽しむためには、マナーの遵守は不可欠と思われることから、圏域全体として取り組んでいきたいと思えます。	無
6	姫川サイクリングロードから大出、さらに通から国道につながれば、走りやすく事故の多い白馬駅前および工事が進んでいる塩島から通に至る直線の急坂を回避できる。サイクリングロード、自転車道、〇〇の道、〇〇ラインはルート選定の参考になる。	施設管理者に要望の旨を伝えます。	無
7	ぜひ、お願いしたい。中土駅から道の駅小谷へ抜ける姫川沿いは通行可能なのか定かではないが、通らせていただきたい。危険な道は避けて走りたい。	記載の”閉鎖されている蒲原トンネル”は、小谷村道の湯原1号トンネル、湯原2号トンネル、青抜トンネルのことと考えられますが、これらのトンネ	無

7		ルは施設が危険な状態となっており、通行は不可となっています。中土駅から道の駅小谷までの間は、現地の状況、利用状況を鑑みてネットワーク路線に指定していません。	無
8	白馬村外でレンタルバイクを借りた経験ですが、法令で決められているライトや反射板を備えていない事が多々ありました。公道を走る以上法令順守は必要ですし、ベルやヘルメットも推奨すべき事柄です。また、悪質なケースでは、中国製の E バイクを使っている業者では、国内では認可されないタイプのを貸し出していました。業者の適切な指導も必要ですし、優良な業者を判断するための知識を、顧客へ啓蒙することも必要かと思えます。	P69に記載している「長野県自転車貸付事業者登録制度」の普及に努めていきます。	無
9	ライトは、もう昼間でもつけるのが、一般的なマナーになってきています。夜間はつけましょうだと、ちょっと古いかもしれませんね。	昼間の点灯は対向車からの視認性向上につながるため、マナーアップと合わせた意識啓発に努めます。	無
10	雪国の道路なので、路肩にひび割れや、砂が堆積することが多いので、自転車がそれを回避して、道路の中央によることが、他の地域に比べて多くなります。運転する側がそれを理解していないと危険なので、その旨を周知する幟を立てても良いかなと思えます。	自転車の安全な走行環境の構築においては、自動車運転者に向けての意識啓発も重要であることから、関係機関と連携を図りながら啓発活動を進めていきます。	無
11	自転車を追い抜く時に、側方車間が狭い車が多く、観光客に悪いイメージを持たれています。地元のナンバーだと、感じ悪いので、自動車の運転する側の啓蒙も必要かと思えます。出来れば、条例で側方車間の基準を明記して頂くと効果的かと思えます。お客さまを守る姿勢を示すことが必要かと思えます。	自転車の安全な走行環境の構築においては、自動車運転者に向けての意識啓発も重要であることから、関係機関と連携を図りながら啓発活動を進めていきます。	無
12	白馬村には白馬村 MTB クラブや北アルプス自転車協議会、白馬森輪組合等の任意団体があり、白馬バレー事務局でも MTB に関わる「サイクルトレイル計画委員会」を開き、現在、北アルプス自転車協議会は NPO 法人組織にする申請を行っており、白馬バレーエリアにおける MTB ツーリズムや体育教育、地域振興について活動する団体として、今後更に注力して行くところです。ロードサイクリングだけでなく、オフロードサイクリングにおけるルート整備、拡張、白馬バレーエリア含む各団体との連携等のご検討をお願いします。	マウンテンバイクの普及について、北アルプス地域は長い歴史があり多くのフィールドがあります。今後とも多様な自転車アクティビティに対応できるよう、利用環境整備に努めていきます。	P68「ウ 自然環境と自転車共存できる環境づくり」において「トレイル整備と併せ」と文言を追記

13	<p>昨今では E-Bike というスポーツバイク(特に MTB において)を国産だけでなく、多くの海外メーカーが開発しています。海外輸入品においてはその規格が道交法から外れていることから、国内市場のガラパゴス化が懸念されています。是非、長野県で特区を設け、自転車観光に繋がる計画をご検討ください。</p>	<p>本計画では、自転車の安全利用を最優先としているため、現時点では検討していません。</p>	無
14	<p>高規格道路が開通し、現在の国道が旧道となった際には、自転車の走りやすい道になることを期待します。</p>	<p>P71～78 の「第 4 章 自転車ネットワーク計画」に記載しているとおり、自転車通行空間の整備を進めていきます。</p>	無
15	<p>私は、自宅から走り出すのはもちろんですが、マイカーで移動し日帰り温泉や道の駅を起点にサイクリングをしています。最近、サイクルトレインを利用させていただき、学生時代に輪行したことを懐かしく思い出しました。輪行は慣れるまでや車種によって面倒です。サイクルトレインはいいですね。</p>	<p>P66 に記載したとおり、旅客輸送の安全性確保を前提としつつ、北アルプス圏域についても事業者へのご理解を求めながら、より魅力的なサイクルツーリズムの展開を目指して行きます。</p>	無
16	<p>基点となる駐車場や駅に自転車を洗える場所があると喜ばれると思います。雪国ですから、エンカルの影響もありますし、車に積む前に洗えると快適ですからね。 公共交通機関への積み込みも海外では普通に行えるので、積極的に導入して欲しいです。</p>	<p>今後の検討課題とします。</p>	無
17	<p>MTB 人口が海外に比べ極端に少ない国内での MTB ツーリズムには伸び代しかないところと感じています。村内にはたくさんの MTB ユーザーがいますので、その意見や活動をもっと吸い上げて、今後の自転車活用推進計画に役立てていただきたい。</p>	<p>P67「(2)サイクルスポーツの振興」に記載したとおり、サイクルスポーツの普及・啓発に努めます。</p>	無